

地域のつながりから 持続可能な社会へ



発表者

- 櫛山 桐加 … 祝女の聖地に建つ鳥居が語る一徳之島における神道の受容と神社形態—
浅野 倫子 … 虐待する傾向のある母親の性格特徴とその背景との関連性について
澤村 健一 … わが国の地域で暮らす高齢者と地域社会のつながり方について
—幸福度との関連を中心に—
李 孝民 … CSRの四要素と財務評価四指標の関係

日時 2026年1月31日(土)
13:00~16:30
オンライン開催 (zoom) 参加無料



▲参加申込
QRコード

【お問い合わせ先】
地域政策科学専攻事務室
Tel: 099-285-7592
E-mail: lehdoc@leh.kagoshima-u.ac.jp



我が国は少子高齢多死社会を迎えている。人口が減少し続ける中、地域社会での人と人のつながりは希薄化している。人と人のつながりが失われていく社会には、明るい未来が訪れるのだろうか。これからの世代のために、明るい未来を作るのは、今ここにいる私たち地域住民の使命ではないか。今ここでなんとかせんならん。本研究の目的は、地域で暮らす高齢者の地域社会とのつながり方を分析し、課題を導き出す事である。今後の課題解決に向けた取り組みの礎としたい。(澤村健一)

気候変動や社会課題の深刻化を背景に、企業価値は財務情報だけでは説明しきれず、ESGを投資判断に組み込む動きが加速している。日本ではサステナビリティ情報の開示拡充が進み、EUのCSRDや米国SECの気候関連開示など、非財務情報の開示義務化も拡大している。こうした中でCSRは、選択的な活動から企業の持続的成長に不可欠な要素へと位置付けが変化している。本研究は、CSR活動のどの側面が企業の財務パフォーマンスに正の影響を及ぼすのかを明らかにすることを目的とする。分析には『CSR企業白書』を用い、CSR評価の4要素(人材活用・環境・企業統治・社会性)と、財務評価の4指標(成長性・収益性・安全性・規模)との関係を、重回帰分析により検討する。(李孝民)



少子高齢化が進むなか、安心して子育てができる環境をどのように築いていくかは私たちの大きな課題の一つである。それは、児童虐待の相談対応件数の増加にも関連し、子育てに困難や苦悩している現状があると捉えられる。特に、社会との繋がりが希薄な家族や一人で周囲に頼ることができない母親など子育てする環境には多くの背景があり、母親自身の性格特徴も様々である。そこで、本研究では、虐待する傾向のある母親の性格特徴とその背景との要因について探究し、どのような支援方法が考えられるかの一助にしたい。(浅野倫子)



本稿は、徳之島における神社の形態とその普及過程を通じて、神道の受容のあり方を考察するものである。徳之島では、鳥居のみが建ち社殿を欠く聖地がいくつか見られ、祝女(ノロ)による祭祀が行われた神山やトネ屋跡など、在来の信仰空間が今も残されている。神社の設置は明治維新後に進められ、中央集権的な神社制度の一環として導入されたが、戦後には個人による社殿の寄贈も見られ、神社に対する否定的な印象は薄い。こうした事例を通じて、徳之島における神道の普及が一方的な強制ではなく、地域の信仰と折り合いながら進んだ可能性を探る。(櫛山桐加)